

## 地の食・地の器

喜多方・夢・アートプロジェクト 福島県喜多方市大和川酒造昭和蔵 2013.11.8-11 参加学生：9名



### 地域に必要な物を提案し作り出す。 もともとある地域資源を活用する。

2012年に実施した「PLAY MEAL」での活動から、地域資源の活用方法について具体的にまとめ、ポスター展示を行った。

#### ポスター展示

「地の食・地の器」の開催とともに、学生によるリサーチツアーから喜多方の魅力を伝える提案をポスター展示した。

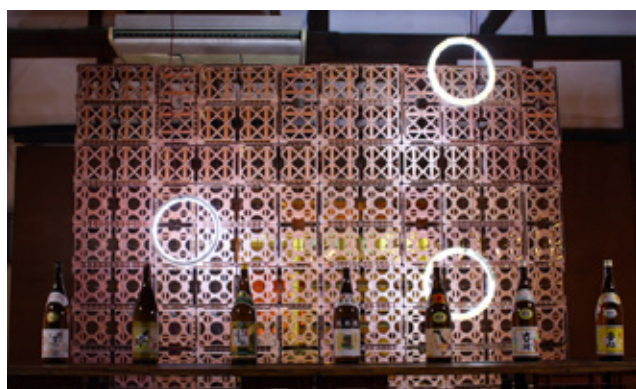
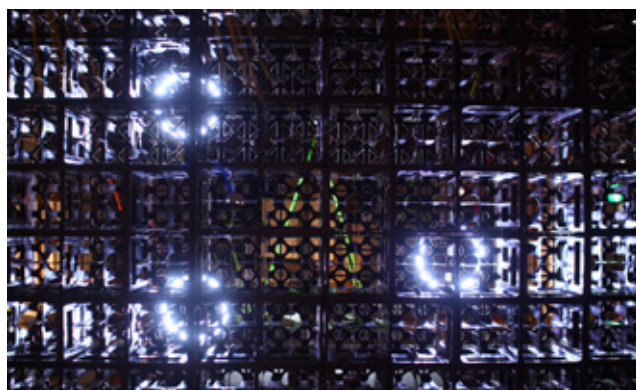
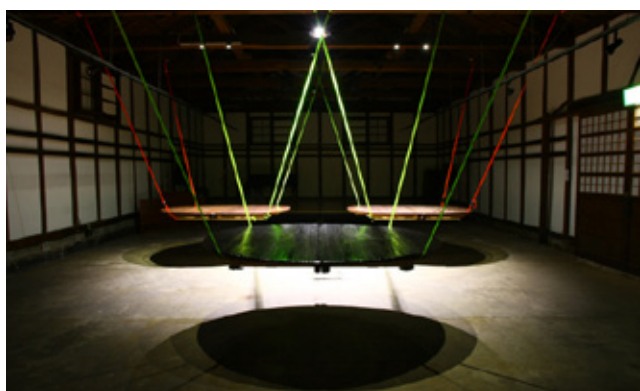
- 1) 喜多方フードコーディネートツアー
  - 2) 自然素材の器
  - 3) HOW TO MAKE MAGAZINE
- 喜多方で独創的に遊ぶための冊子作りの提案 -

蔵の空間の活用について、芸術の視点からアプローチした。これまで現地で行ってきたワークショップから、仮に形をとどめる、ロープ、ラジエット、クランプ、インシュロック等の使用が有効だと分かった。あらかじめそれらを用意して、地域にある資源「ありもの」を有効に使った空間演出を試みた。





ラジエットベルトを使い、酒桶の蓋をテーブルにする。

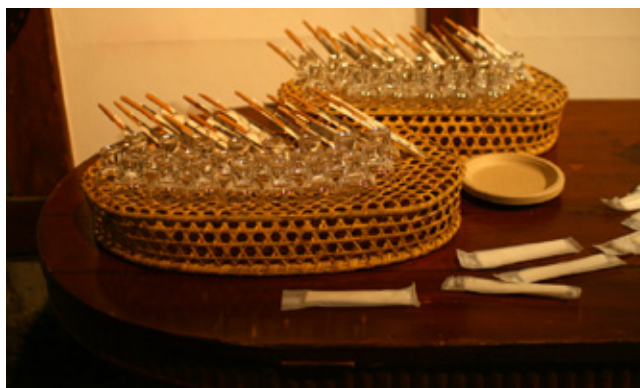




根曲がり竹の器を考案し、雄国竹細工保存会へ制作を依頼した。PLAY MEAL と同様に、地域の食材の姿が見える調理方法をとった。参加者は、笹で器を作り味噌や醤油などで自ら味もつけた。食に関係する地域の資源を一同に集める試みは、そこに必要な物は何かを考える機会となる。農閑工芸は、比較的小さな社会で回る流通の中で、地域に必要とされる物を作ってきた。地域にある物事を同じテーブルに載せて、有機的に繋げることから新しい地域資源が再発見できる。







リサーチ：科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2011-2013  
「農閑工芸の研究-地域資源を活用した教育プログラムの構築-」  
※食材等は上記研究費に含まれない

発表：「地域資源を活用する農閑工芸の研究」2011 年度  
「喜多方・夢・アートプロジェクト」からの外部資金  
※食材等は上記研究費に含まれない